令和４年度　学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	基本的な生活習慣を確立させるとともに、一人一人の生徒にタブレット端末を活用させる授業を実践することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につなげさせる。	①	遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への指導を通して意識改革を図り、基本的な生活習慣を確立する。	生徒課 各学年 教務課	朝学習の実施や登校指導により、近年１日平均遅刻数は５人以下となっているが、一昨年度２．９人から、昨年度４．７人に増加している	【成果指標】 遅刻数が減る。	遅刻者が１日に A　３人未満 B　４人未満 C　５人未満 D　５人以上	C，D場合、生徒への働きかけを再検討する。	毎月の集計値
		②	決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	生徒課 各学年	学校生活における正しい服装容儀を守り、品位ある行動を取らせるため、学年団を中心にきめ細やかな指導を継続している。	【成果指標】 ルールを守る生徒が増える。規範意識を育てる。	私は（生徒は）校則等のルールをしっかりと守っている。 A　よくあてはまる B　ほぼあてはまる C　あまりあてはまらない D　あてはまらない	A＋Bの合計が８０％未満の場合、指導方法を検討する。	７月と１２月に生徒を対象にアンケートを実施
		③	個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	相談室 各学年 生徒課	いじめ等の問題は相談室と学年、生徒課が中心で対応しているが全教職員で共通理解し迅速に対応する必要がある。	【努力指標】 全教職員が共通理解しいじめ等の問題が起こらない明るく健全な学校を目指す。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A　よくあてはまる B　ほぼあてはまる C　あまりあてはまらない D　あてはまらない	A＋Bの合計が８５％未満の場合、早急に改善を検討する。	７月と１２月に教員を対象にアンケートを実施
		④	一人一台タブレット端末を効果的に活用する等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する	教務課	授業が理解できたとする生徒が７０％台である。	【満足度指標】 授業を理解できたとする生徒が増え、自ら授業に参加する。	授業を理解できるとする生徒が A　８５％以上 B　７５％以上 C　６５％以上 D　６５％未満	C，D場合、改善策を検討する。	７月と１２月に生徒を対象にアンケートを実施
		⑤	総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	進路課 各学年 教務課	探究的な学習、進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、自己の在り方生き方を見つめ、進路実現に繋げる必要がある。	【満足度指標】 生徒自身が自己のキャリア向上を認識でき、充分な進路知識を得られる。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A　８０％以上 B　７０％以上 C　６０％以上 D　６０％未満	C，D場合、改善策を検討する。	７月と１２月に生徒を対象にアンケートを実施
		⑥	３年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	進路課 ３学年	４月現在、３年生の６５％が進学を、３５％が就職を希望している。保護者と連携しながら、基本的な生活習慣も含め継続的な指導が必要である。	【成果指標】 進学者は第１志望校への合格１００％を目標とする。 就職希望者は、内定率１００％を目標とする	第１志望校への進学、就職内定が実現した生徒が A　１００％ B　９０％以上 C　８０％以上 D　８０％未満	C，D場合、取組等を再検討する。	年度末に集計

2	部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、豊かな人間性を身につけた生徒を育成する	①	新入生全員が部活動に加入するよう指導し、かつ継続的なものにするため、中途退部者に対しても、他の部活動への再入部を強く勧めていく	生徒会室 全教員	入学時に部活動加入を勧めていることもあり一昨年度７８％から、昨年度８２％に加入率が増加した。途中で退部する生徒が見受けられることが課題である	【成果指標】 部活動に加入し、放課後に校舎校地内外で継続的に活動する生徒が増える。	１・２年次生の部加入率が Ａ　８５％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	部活動加入率が５０％未満の場合、早急に改善を検討する。	５月と１０月の集計値
		②	積極的に部活動の指導に携わり、学校の活性化に寄与していく。さらに、部活動の指導力向上にも努める。	生徒会室 部顧問	部活動の加入率に大きな変化はないが、部活動指導の充実を、学校の魅力化・活性化に繋げたい。	【努力指標】 できる限り部活動の指導に携わる。	部活動の指導について Ａ　積極的に支援し指導している Ｂ　概ね支援し指導している Ｃ　あまり支援せず指導していない Ｄ　殆ど支援せず指導していない	Ａ＋Ｂの合計が７０％未満の場合、早急に改善を検討する。	７月と１２月に教員を対象にアンケートを実施
3	特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動に積極的に参加し共生の理念に基づく地域社会に貢献しようとする生徒を育成する。	①	特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。	ｲﾝｸﾙｰｼﾌﾞ推進室 各学年 生徒会室 部顧問	一部の部活動や学年行事で交流を行っている。	【満足度指標】 特別支援学校の生徒との交流に積極的に参加し、充実した活動を行っている。	特別支援学校生徒との交流を通して生徒は Ａ　積極的にかかわり満足している Ｂ　おおむね満足している Ｃ　満足度が低い Ｄ　満足度がとても低い	Ａ＋Ｂの合計が６０％未満の場合、活動内容の改善を検討する。	交流を行った学年や部活動にアンケートを実施する。
		②	福祉施設訪問やボランティア活動の実施などを通して、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	総務課 生徒会室	福祉施設訪問や地域一斉清掃活動により、ボランテイアの意義を理解させ、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	【満足度指標】 生徒が地域との交流やボランティア活動に積極的に取り組んでいる。	ボランティア活動など地域との交流に関する事業に Ａ　積極的に参加している Ｂ　充分ではないが、おおむね参加している Ｃ　あまり参加していない Ｄ　全く参加していない	Ａ＋Ｂの合計が５０％未満の場合、改善策を検討する。	７月と１２月に生徒を対象にアンケートを実施
4	生徒･保護者･地域の理解を得ながら、組織的で効率的な業務に努め、教職員の多忙化改善に取り組む。	①	教職員の勤務時間調査を継続するとともに、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	全教員	働き方改革を意識し、時間外勤務縮減に努めている教職員の割合は増えているが、時間を意識した効果的な業務遂行により一層取り組む必要がある。	【努力指標】 全教職員が働き方改革を意識し、時間外勤務縮減に努めている。	働き方改革を意識し、時間外勤務縮減に努めている Ａ　よくあてはまる Ｂ　ほぼあてはまる Ｃ　あまりあてはまらない Ｄ　あてはまらない	Ａ＋Ｂの合計が８５％未満の場合、早急に改善を検討する。	７月と１２月に教員を対象にアンケートを実施